



大型をシンプルに釣り込む、激釣理論大公開!

特集 春の管理釣り場激釣法

10 小林恭之 ライト“沖”セット in 金山湖HC

17 生井澤 聡 チャカチョーチンセット in 清遊湖

こだわりの店 黒べゑ提供
お年玉プレゼント当選者発表

▶ 今月の表紙 ◀
field: 三島湖
angler: 中澤 岳
photo & layout: 本誌・里

22 国際フィッシングショー2007

26 フィッシングショー-OSAKA2007

28 石井旭舟 へらぶな浪漫街道
《第五十一回》千葉県 印旛新川

34 小池忠教 激釣の急所
《第三回》例会

40 《新企画》戸張 誠 関べら戦記2007
《第二回》2月例会 横利根川“迷い”

44 伊藤さとし 武蔵の池で将鱗へらスーパープロフロロ
&将鱗へらスーパープロPLUSで釣り込む!!

49 杉山達也のSUPER SPLASH!
《ROUND.15》ロングショットで激渋に勝つ! 柳生F.P

54 斉藤心也 炎のチョーチン12番対決!!
《第4戦》vs西田一知in三名湖

★AREA REPORT
管理釣り場 将監(千葉県) 本誌・伊藤洋一
春の北陸釣り場8選 山本一朗
筏川寄せ場(愛知県) 後藤 誠
水藻FC(大阪府)・血垣の新堀(福岡県) 前田誠志・河口正伸

134 竹とともに生きる。
《第41回》「春満」 米田博茂

137 岡田 清 Deep Side Angle
《Vol.39》【高速両グル】 筑波流源湖(茨城県)

143 中澤 岳 フィールド真っ向勝負
《Vol.15》真冬の両ダンゴ一本勝負in三島湖

148 田辺哲男 MYへら道
《へら道その三》真冬の丹生湖で激釣したい! 丹生湖

152 《新企画》吉川ひとみのあっちこっちそっち♡ 激闘編
《Vol.2》ひとピー、「椎の木湖」大型大会で優勝!?

156 稲毛利夫 崖っぷち釣行!
《第4回》師匠は崖っぷちがお好き!? 鬼怒川本流(茨城県下妻市) & 西部中央公園(栃木県佐野市)

160 私の宝物
《Treasure.15》ゲスト:千葉祐一さん

193 棚網 久の我流
《第十四回》山の魚は敏感に動いている!! 戸面原ダム

201 釣り味
《第4回》千葉市花見川区 鮎処「松葉」の【鮎のたまごの煮付】

204 北川穂積 西の交友録
《第十六回》ゲスト:西田美明 釣り場:小皿池(兵庫県)

206 釣果予想クイズ

208 フィッシングレディ
《今月のレディ》米林由美さん 隼人大池

釣り場割引 クーポン券

p.163~

野田幸手園 椎の木湖
清遊湖 谷和原大沼
上尾園 F.A吉羽園
谷養魚場 将監
柳生 F.P 筑波白水湖
泉堰 逆井HC
友部湯崎湖
三和新池 狭山HC
川越 F.C
芦田湖水光園
鳥羽井沼 大上へら池
霧の沼 小川つり堰園
清川つくしFC
千代田湖・舟宿 千和
相模湖・釣舟 五宝亭
相模湖・釣舟 天狗岩
吉森HC
甲南へらの池 当麻池
水藻FC 朝日池
釣り堀八十八
精進湖・釣舟 金風荘

76 へら鮒釣り 超基本講座【道具作り編】
《第28回》フラシ作り②

83 ガチンコ道場
《第16回》2007第1回ガチンコトーナメントin八十八

91 都祭義晃 カリスマ伝説2007
《Vol.16》~国際フィッシングショー2007~

99 江成公隆のトーナメンター、復活への道。
《Vol.58》名称未設定II

104 平成18年度 相模湖大型表彰式

106 夢追釣人(ゆめおもうもの) 天野正由
今月の夢・未開の釣り場で大物を釣りたい! 佐鳴湖&増沢池(静岡県)

110 水辺のプラネタリウム 吉本亜士
《今月の星空》「マリー・アントワネット」

114 最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢タカハシ
《第五十話》穴に始まり穴に終わる。印旛新川ゴミ掃討大作戦!

119 へら鮒を三枚に下ろす 西田美明
《第4回》「冬のへら攻略法。フェロモン? テルテル坊主?」

122 釣れてまっか~? 釣らせてください!! 南元彦
《第4回》どうなってますの!? 管理釣り場トム・ソーヤ

124 水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト
《第4回》「臭いと書いて、においorくさい?」

126 野田幸手園新聞

161 ワクワク管理釣り場情報

170 小売店情報

★へら鮒BOX
177 里ちゃんの新米編集長雑記
178 情報発信基地
180 ボイス
187 コラム「日研だより」 日研広報部長・遠藤克己
188 コラム「上村流!」 上村森生
189 コラム「紀州“想いの竹”のものがたり」 中峯伸行
190 プレゼント発表
191 広告索引
192 編集後記

STAFF

●発行人
根本百合子

●編集長
田中里史

●編集部
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●へら鮒NET
根本大作
高田 準

●企画
〈オフィス・えぶ〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！—ひよいは再発症！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

里が締め切りをハッキリ提示しなかったのをいいことに、
今月も江成はやってくれたっす。
しかも、2月だというのをすっかり忘れていたんだと。
さらに、20日の時点で内容もタイトルも全く未定ときたもんだ。
…ハハハハ…毎月毎月シビれさせてくれますホンマ。

で、上がってきた原稿は…突然死だぁ？

もう勘弁ならねえ！
打ち切りじゃ～!?

by里ちん

今年もやってきた悲惨なシーズン。どんなに少ないと言われたところで、鬱な季節に変わらない。もっとも見方を変えれば、花粉の飛散は春の到来を告げる素敵なセレモニーでもあるのだが、暖冬では春到来のサインもありがたみが薄い。止まらない眼のかゆみ。突然ツーツとタれる鼻水。ふいに襲われて必ず連発するくしゃみ。ティッシュを使い過ぎてトナカイ。まさにグシユグシユ。ご記憶の読者がおられるかどうかは定かではないが、個人的に「めっちゃブルー」な昨年イチの事件はこの時期に起きた。やはり集中力に欠けるのだろうか。体力の消耗もかなり激しい。くしゃみは腹も空く。全てが少しずつ噛み合



わなくなつて、大きなトラブルになるのではないだろうか。と、一年経ってみて、昨年のトラブルを花粉症のせいに出来た僕は、お気楽者である。そして健全である。

2月20日昼前、里ちんからの着信を知らせる携帯のイルミが点滅していることに気が付いた。仕事中の僕は会社の携帯を持ち歩いているため、基本的にプライベートな携帯は車内に置きっぱなしだ。着信は都合二回で、メールまで入っていた。

「至急タイトル下さいー」

余分なコメント無しで、たったこれだけの短いメール本文。緊迫感を伝えるには申し分ないが、何を焦っているのか？ 取材が終わってまだ一週間。冗談が過ぎる。

「もしもし？ どしたの急!?!」

「タイトルだけでも教えて下さいよ。目次に載せなきゃいけないんす。カラーは締め切り早いですよ。今日何日だと思ってるんすか?」

「いや〜忙しくてね…。今晚はシフトの組み直しで絶望的じゃん？ 明日は会議の資料をまとめるんでちょっと…。22日は一日中会議で、そのあと店に戻って配布資料作りでへロへロだし。23日が休みなんだけど、自由に使えるのはやっと半日くらいかな。24、25は仕事終わってから二晩続けて送別会だから…って、大体まだ20日じゃん！ 27日には上げるからもうちょっと待っててよオー」

「何言ってるんすか？ その頃はもう配本（本が出来上がって配る日）ですよっ!」

「またまたキミも冗談キツイねえ。もうその手は食わないから（笑）」

「…アニキ、今月って2月なの分かってます?」

「え? …じゃ、23日に頑張りますので!」

「いいえ、締め切りは22日です! 一万歩譲っても23日の朝イチ迄Deader!」

「……今年はおリンピック…ないんだよね?」

突然死と過労死と歯車と自我。

里ちゃんは僕に死ぬと言っているのだ。全く寝ていないとは言わないが、以前よりはかなり頑張ってる？いるつもり。どうやってたらこれ以上時間を捻り出せるのか疑問に思うが、無理矢理に先送り出来ることは後回しにし、目の優先順位を考えて何とかやっている。今回も原稿は何かかなりそう予定。いや、何とかしなければならぬ。毎月毎月何やってるんだ俺は…。追われて焦り、終わってホッとしてまた追われ！脱稿すると、「来月こそは前倒しで」という思いはすっ飛んでしまう。というより前倒しする時間もないような気がする。

冗談はさておき、先日、取引先でよく顔を合わせる同業（競合）他社の営業マンが亡くなった。

前日まで元気そうだったのでとても驚いた。大病を患っていたので何でもなく、突然死ということだった。その人がいなくなると何にも困ることはない程度の関係でしかないが、ライバルとはいえ、縁あって顔を合わせたわけだから、ショックを受けない筈がない。自分の家族や親しい友人達に置き換えて考えると、何ともやり切れない。やらなければならぬ事、やりたい事はまだまだたくさんあったるうちに。てか、自分に置き換えたらどうよ？…想像も出来ない。しかし、明日は我が身。いつお迎えが来てもいいように、残される者が困らないよう・残された者に笑われないよう、準備はしておかなければならないのだ。…けど、無理だな。最近の僕のMacのデスクトップひとつとっても、とても整理する気力がない。24時間いいで、誰か時間を止めてくれないですか？…って、自分も

止まっちゃうのかな（そしたら実はたまたま止まっても、誰も気付かないですねえ）。

もうひとつショックだったのは、その営業マンの「代わり」が、翌日にはスツと入り込んでいるということだった。まさに歯車。もちろん人員が突然一人減ったので、やりくりはそれなりに大変だったろうとは思いますが、それれもいずれは収束するだろう。やはり代わりはいくらでもいるのだ。亡くなった本人が死を予知していたわけではないので、業務の100%を滞りなく引き継げるよう準備していたとは考えにくい。だから「突然」死と言われるわけだが、大筋の業務は亡くなった本人よりもっと上のレベルで決められたフォーマットにそって行っているから、企業の存亡に関わるような大きな問題は、「普通は」ない筈だ。ここで見方を変えると、実はみんな日頃から無駄な仕事をしているんじゃないの？っていう話にもなる。悲しい。無駄は言い過ぎだけど、歯車であるということとを弁え、ほどほどにしておかないと虚しいだけかもしれない。それからしばらくして、配られた（配ったのは僕）社内報に目をやると、「過労死」について取り上げられていた。「証拠力が弱いので、終業のタイムカード打刻後のサービス残業は、避けましょう」だった。「どうしても」強要されている「場合は、メールの送受信記録や、電話の通話記録が重要になります」とも。日頃から会社側が管理しているそのデータの用意しておけるワケないし、突然の不幸のあと、残された家族が集めるのもなかなか大変な作業だと感じる。最近の僕のように「仕事で面白い」なんて書いてみると、もしそれを証拠として会社が見つけてきたら、もう負けなんでしょうね。そうは言っても、自営業やフリーの人よりは恵まれているわけで。でもガラス張りで意味もないわけで。いやいや安定度が違うか…。ま、どうでもいいけど現

在の僕的には「サラリーマンでいい」という気分。愛社精神になるのかどうかは分からないけれど、時間の切り売りとはいえず、このご時世では働かせていただける恩も感じてしまっているので、他社の商品を購入する気にはなれないし、業務そのものは好き。だったら何も書かなきゃいいのには思うけど、これが江成。社内的にはどこの会社でもいろいろな問題があって、大変なんだろうとは思像がつくけれど、実際に聞いてみるとホントに似たりよったりで面白い。内部告発で話題になってしまったような会社は、社員をあまりにもないがしろにしちゃったんじゃないのかな、という印象を受ける。コンプライアンスがどうのっていう以前にそこなんじゃないかな、と。僕なんかも数年前はヤバかったですよ。思いつめて正義感に駆られちゃうところでした。「バシなきやい」とは言いませんが、労働環境にしろ商品にしろ、どこでも何かしらあるんじゃないかな。それが漏れるか漏れないかは、人なんじゃないかな、って。…コレ、連載始まって以来おそらくトップレベルの問題発言ですが、ちゃんと自覚しておりますので、何卒スルーして下さい。ちなみに、「ウチの職場に限っては、コンプライアンスですのでヨロシク！」と書いておきます。



アニキのパソコンのデスクトップ。ムチャクチャです…

八十八。

2月のナリース例会は、「釣り堀 八十八（やそはち）」さんで行われた。

先月号で棚網氏の企画で取り上げられるまでメジャーシーンにその名が出ることはほとんどなく、どちらかと言えばマイナーな、地元愛好者達の隠れた名釣り場であった筈だ。ホームがメジャーになっていくのは地元ファンの流入で嬉しい反面、県外からの釣り人の流入でささやかなコミュニティが崩れてしまいかもれないし、野釣りなら場荒れの危惧もある。

棚網氏が書いていたとおり、一見して風に強い釣り場であることは理解出来た。池の脇を走る電車も、ローカル色満点で僕好み。そして何より、人なつっこいおやっさんの人柄に惚れた。名前もいい。僕の自宅からはちょっと遠いので、ちよくちよく遊びに行くことは難しいが、それはそれで良かったかもしれない。家の近所にあつたら間違いなく通い詰めてしまう。解雇に離婚…。ああ恐ろしい。とまあ、そのくらいに一発で気に入ってしまったのだ。

真冬でもダンゴでイケちゃうほどの活性とサイズという前評判だったが、満席では厳しい。それでも昨今の大型ベラ主体の管理釣り場よりは遥かにウキは動き、じゅうぶんに楽しむことが出来た。やっぱり釣りはこうでなくっちゃ。

「浅いタナのセットの練習」が、目下のナリースのテーマである。僕としても必須科目なのは何年も前から認識しているが、「冬は底釣り」という大昔のへら師気質が抜けない。みんなからも、「どーせ底やるんしょ？」と言われ、仕方なく（!?）丈八を継ぐ。

3センチ段差。

タイトハリスで有名な古川実君は都合で欠席だったため、代わりに僕がやってみた。

今回の例会では、順番に15分ずつ見学時間を設け、誰かの釣りに見に行くというルールを設けてあった。須崎副会長が僕のそばへ来た時、

「すごい段差が狭いですね」

と言われたので、ちょっと触れておきたい。

先月、軽いクワセを用いたセットの底釣りの場合、重めの素材で組み立てる一般的な底釣り用の上バラケが、アンカーになるのだと書いた。ズラシを多く入れて沖打ちし、テンションの抜き差しをする際、ウキの上がりや左右するのは実は食わせるべき下バリより上バリの役割が大きいことになる。段差を大きくとってしまつと、わずかな下バリのテンションが確認しづらいつという事態に陥る。日頃から5cm段差を「自分なりの基準」とする僕で言えば、「この程度のズラシならこのくらいの上がり」というイメージよりも、戻りが良過ぎてしまうということになる。もっとも底の状態や魚の量でも変わってくる話だが、当日は久しぶりの「スーパーフラット&硬い」底だというのが僕の認識。色気を出し、落ち込みの新べら狙い含みで当初は15cmも付けた段差を思いきって3cm段差にまで詰めたのは、アタリが出きっていないと感じたのと、スレが目立ったためである。

と、ここで昔の底釣りのセオリーをひとつ思い出したのでちょっと書いておきたい。

底釣りゼミを書く前に、最後までひっかかっていたのが、

「グルテンには大きなズラシ・ダンゴにはトン

…というセオリー。このとおり底釣り初心者やると、おそらくグルテンではスレまくり、ダンゴではカラだらけになりやすい。もしかすると僕の記事を読んだ人の中には、このセオリーと底釣りゼミが矛盾すると感じている人がいるかもしれない。

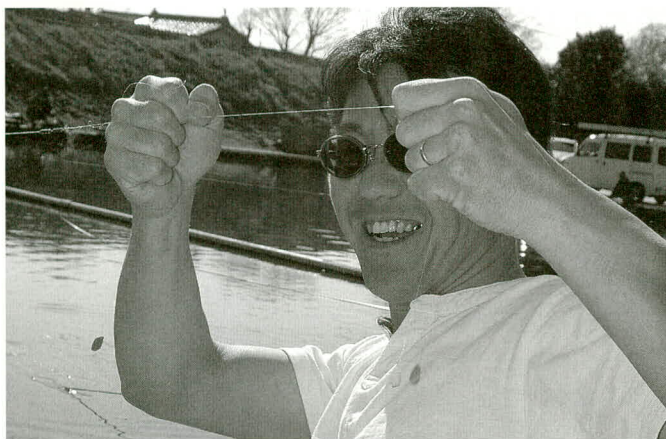
では、このセオリーは間違っているのかといえば、そんなことはない。ただ、「底釣りはテンションが大事」という理解無しにこのセオリーを頭の片隅に置いてしまうと、問題が起る可能性があるということなのだ。しっかりと補足しておこう。

「活性が低いために吸う力も弱い地合で軽いグルテンを使うのであれば、クワセは安定していた方がいい。ハリスの角度も寝かしてあげないと、ハリスへの警戒心からエサを拾うことをためらう可能性がある。大きくズラす。が、テンションをかけておかないと、ただのズラシ過ぎとなり、サワリ・アタリをきちんと伝えられない。そんな状況でも伝わるのは大きなスレアタリのみとなる。ダンゴを用いる際、活性が高く着底寸前から直後のアタリで決まる可能性があれば、落とし込みでへらを筒状に寄せ、さらなる厚い寄りを狙う。落とし込みでナジミ際の動きをきちんと伝えるためには、トントンが有効。落とし込みで大きくズラした場合は、ハリスが張らないまま着底する可能性があるためだ。が、そういう場合には遭遇出来ずに、結局普通の返しからの釣り（完全底釣り）になるのであれば、トントンはハリスの角度がなさ過ぎて、へらにしてみれば拾いづらい。ウキのバランス位置まで返していない状態で食つても、抵抗から吐き出しが早まる可能性もあり、カラツンの元である。そんな時は、ためらわずズラしていくが、実は重さがある分、グルテンよりズラせる幅は広い。最終的に重さが食い込みを妨げる可能性は否定出来ないが、トントンは

ではネックではない重さも、ズラシを入れていく際には、アンカーとして有効に作用する」

僕が冬でも両ダンゴの底釣りにこだわるのはコレである。ダンゴの方が組み立てがしやすいのだ。これはもちろん人間の都合。ギリギリまで攻めてみて、無理なら潔くチェンジしなければならぬ。参考までに例会当日の僕のエサの変遷も書いておこう。朝イチはバラグルのセット。大半はダンゴ。最後は両グル（新べら狙い）だった。

「以上、えな理論でした！」



新作!!

慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。
杉山作初の美しいブラックボディで登場!

【底釣りスタイル】

繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。

- ボディは羽根2枚合わせ5.5mm径。精悍な極薄ブラック塗装仕上げを採用
- ダイシニング製ホワイトトップ（内径1mmパイプ）採用。軽量かつ視認性大幅UP!
- サイズ：一番（T10cm B9cm カーボン足4.3cm）～六番（T17.5cm B16.5cm カーボン足4.7cm）
- ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現!
- 定価1本7,350円（税込）

取り扱い店（五十音順）

埼玉・越谷 かわせみ（☎048-969-5067） 茨城・下妻 こやの釣具（☎0296-44-1619） 東京・渋谷 サンスイ川釣り館（☎03-3499-5025）
埼玉・入間 へらの三水（☎042-964-2093） 栃木・益子 フィッシングハウスほその（☎0285-72-2215） 神奈川・川崎 鮎仙人（☎044-287-7470）
東京・吉祥寺 丸勝（☎0422-22-8923） 東京・青梅 吉川釣具店（☎0428-22-2467）

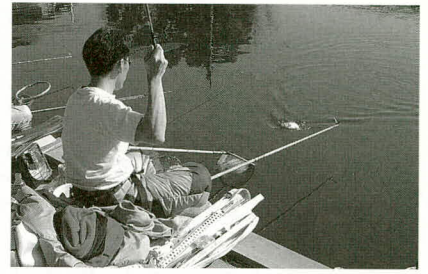
杉山作



何気にレベルが高いナリーズ。クラブ対抗はもらったも同然!?



これはご愛敬…っっていうか、中澤さん、勝手に会員にされちゃってますよ!



ナリーズin八十八。そして、Tシャツ一丁で釣る、会長…。ちなみに、今回の写真は、プライベートで偶然来ていた本誌カメラマンの加賀三義氏が、たまたま持っていたカメラで撮影(もちろんノーギャラ♡)。全くもって人使いの荒い会長である…

もともとナリーズは競技会を主旨とはしてない。「どっせやるなら」・「勝負事は皆キライじゃない」程度であって、目的はあくまでも研究とためのコミュニケーションだ。過去には「自作自演」という失敗があるが、運営は僕一人ではないので大丈夫だろう。というか、僕は名前だけで何もやっていない。自作自演同様、僕のブログも全く更新されていない。元気があったのはリニューアルした最初だけで、BBS設置の要請に「昨年中には」と答えていたものの、気付いたらもうすぐ3月。にもかかわらず、新しいウェブサイトを立ち上げることにした。



ナリーズもだいぶ会員が増え、「僕の都合の良い日に例会開催」とはいかなくなつた。当たり前である。当面の例会日を決めただが、多くは既存のトーナメントを兼ねての例会。そして、祭日指向。僕のように毎週末が休みではない人以外でも、毎週毎週釣りは厳しいだろうから、これは釣行回数が少ない人には嬉しい配慮、かな?

現在の僕は、会議で召集されるのを除けば、休みは好きな日にとれる。自分の都合に合わせていくだけでもシフトをいじることが可能だ。しかし、あまりにも露骨ではマズいし、休みの全てを自分一人ですらうわけにもいかない。ナリーズで例会を兼ねて参戦が予定されているトーナメントには、チーム対抗戦も多い。とりあえず僕もメンバーに入っているが、一回だけならまだしも、複数回の約束は厳しいかもしれない…と、ここ数日で感じはじめた。あまりにも突発的な出来事が多過ぎるのだ。釣果で足を引っ張るならまだしも、ケツ割りで迷惑をかけるわけにはいかない。

「ナリーズウェブ(仮称)」
<http://www.naries.net/>

また同じ失敗を繰り返すだけだと思われるかもしれないが、今回はウェブマスターは僕ではなく、副会長の須崎氏にお願いした。長続きすると思う。

最近のナリーズ会員の活躍は凄いいものがあつて、直近ではフォーラム例会会でのホッシー優勝(平山奥様4位!)、富壇愛好会での綿貴氏優勝、などがある。ちなみにホッシーは段底だつた。前回のナリーズ例会では段底で徹底討論し、ホッシー自身が「けっこう忘れてたよ。今日はいい勉強になったな〜」なんて言っていただけに、僕としてもとても嬉しかった。須崎氏が個人的に開設しているブログに、「会員の活躍にアせる会長?」と書いてあるが、僕は全然アセらない。いたってマイペースだ。



アニキよ、「締め切り」はもう少し焦ってくれ!



「うちって長寿企画がけっこう多いんですよ。これはこれですごいことなんですけど、どんなに面白い企画でも、月刊誌特有の「マンネリ」には勝てないわけで。全面リニューアルすることになった場合に、ちよつと困るわけですよ…。編集長としての話です。で、出来たらキチンと終えたいんで、12月号までに結果出してくださいよ!」

はつきりと「打ち切り」という言葉は使わなかった里ちゃんだったが、言いたいことは伝わってきた。

この連載のタイトルが「トーナメント復活への道」である以上、「そろそろ結果を出してくれよ!」ということだろう。それと、いつも横道に逸れたがる僕の原稿を、「逸れすぎない!」ように、警鐘を鳴らしてくれたのだと思う。

…にしても、今年中に結果が出るわけないじゃん。

毎月原稿に追われる僕に、ウキを作る時間もない。もちろんそれに向かつてやっていくのがこの企画の主旨なんだけど、のらりくらりも居心地がよくて、いまやライフワークとなつているわけだし。でも、もう動弁して欲しいと思う気持ちも、正直ある。現在、23日午前9時50分。締め切りまであと10分…辛い。

おそろしく12月号でこの企画は終わるだろう。僕としては最長寿記録を塗り替えるつもりでやってきたが、編集長には逆らえない。失つて困る立場でもない。生き甲斐的にはマイナスになるかもしれないが、ナリーズも立ち上がったことだし、仕事も面白いし、当面の目先イベントには困らない。

とりあえず今年は「勝ち」にいきますよー!

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

柴舟(東京都江戸川区)

03-3613-2727

佐伯釣具店(神奈川県川崎市)

044-911-3722

SANSUI川づり館(東京都渋谷区)

03-3499-5025

フィッシング中原(神奈川県川崎市)

044-711-8266

鮎仙人(神奈川県川崎市)

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとろえぐり

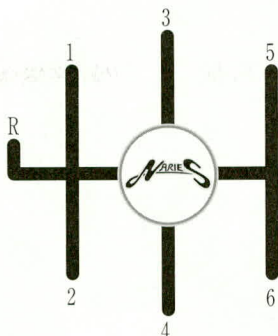
http://www.office27.com
E-mail: info@office27.com

プレゼント予告!

違法ギリギリ(アウト?)の、ナリーズロゴ出来ました! そのうちTシャツを作り出すので、出来上がり次第、読者の方3名にプレゼントします! サイズはフリーの予定。

ホンモノ田辺哲男氏にはもちろん、鮎の穴漢タカハシ氏にもプレゼント予定(タカハシ氏は、幻の鮎の穴Tシャツと要交換)。

ロゴそのものはすでに出来上がっていますが、今回、改めて勝手に追加デザインを。車のミッションパネルをモチーフにしてみました。どう、カッコいいでしょ?



八十八に集まってくれたみなさん、大変だ…。みんな勝手にナリーズ会員にされちゃってるぞ!!

MARIES 綜合成績

順位	選手名	例会参加	重量kg
1	須崎副会長	6	112.25
2	平山奥様	6	97.85
3	江成会長	6	84.92
4	里ちゃん	5	83.75
5	保科健二	5	79.25
6	平山幹事長	6	74.35
7	中島信夫	1	10.0
8	綿貫正義	1	7.8
9	中澤ママ	1	7.2
10	岡田みっちゃん	1	7.0
11	中澤岳	1	6.6
12	木村浩重	1	4.2
13	斉藤修	1	4.0
14	水落さん	1	3.4

MARIES 第六戦 釣り堀・八十八 2007.2.12 Result

順位	選手名	重量kg
1	デューク須崎	11.2
2	ホッシー	10.2
3	中島信夫	10.0
4	江成会長	9.8
5	mimiさん(平山奥様)	7.8
5	綿貫正義	7.8
7	中澤ママ	7.2
8	平山幹事長	7.0
8	岡田みっちゃん	7.0
10	中澤岳	6.6
11	佐藤ノリちゃん	4.6
12	木村浩重	4.2
13	斉藤修	4.0
14	水落さん	3.4

里: アニキ、今回の八十八例会、里は行けなかったんですけど、なんか参加者にすごい名前がチラホラ見えますけど…。この方々ってみんなナリーズ会員なワケ? 綜合成績に名前も入っちゃってるし。

江: 何言ってるの? 当たり前じゃん! いやあ、綿貫さんが入ってくれたのは心強いし、まさか中澤さんが入ってくれるなんてねえ♡ しかも奥様も!

里: あのうち…、先日、中澤さんと話した時、「ナリーズ入会」なんて一言も言ってませんでしたよ!

江: 何言ってるの? あんなに楽しそうにしていたんだから、大丈夫だよ!

里: あのうち…、やっぱりアニキが勝手に決めてるだけじゃないですか! それに、中澤さんは釣りやってる時はいつも楽しそうですから!

江: アハハ…、そうなの? 「ナリーズにゲスト参加という概念はない!」…なんちゃって♡

里: 本文中で「ナリーズも会員が増えて…」なんて書いてますけど、アニキが勝手に会員にしているだけじゃないですか! ちゃんと本人の了解とってくださいよお～。

江: アハハ…。アハハハ…。

里: 笑ってごまかすな!

…会長は偉いのである。何でも勝手に決めてしまうのである(ところで里も会員なワケ?)。

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける...

へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

No.496
Apr.2007

4

九隻
信

激釣

春近し。管理も野も熱い！

開幕。

特集

大型をシンプルに釣り込む、
激釣理論大公開！

春の
管理釣り場
激釣法

小林恭之 & 生井澤 聡

国際フィッシングショー2007
横浜&大阪、総力レポート！！

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本郵政 郵便局番号 100-0001 発行日 毎月1日発行 創刊日 1984年4月 定価 300円(税別) 印刷 株式会社印刷局

3月。野釣りのシーズンが始まります。
本来なら、まだ本調子ではないへら鮒たち。
そんな彼らの活性を高めて、食いを促す。
それが、マルキューの「真底」の効果。
野の底釣りに新風を吹き込む、
これまでになかったダンゴエサです。

野の底釣りを 変える。

魚の活性を高め、食いを促す。
新たな底釣り専用
ダンゴエサ「真底」。

マルキュー独自のフェロモン系特殊誘引剤「ウルトラバイト・アルファ」を配合した、野釣りのための底釣り専用ダンゴエサ。フェロモンの効果で、集魚・摂餌力が抜群。さらに、連鎖反応により、周辺の魚の活性を高め、競い合ってエサを食べさせる、摂餌促進効果も期待できます。食い渋りにも有効。単品で、寄せて食わせる底釣り用ダンゴエサが、簡単につくれます。



野釣りの切り札に。

3月
発売予定

●真底 350g

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第42巻第4号（毎月1回1日発行）
平成19年4月1日発行

定価 1000円

本体九五二円

丸マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
名古屋 四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
Eメール・ホームページ
<http://www.marukyu.com/j>

マルキューホームページ内の「へら鮒天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
<http://www.marukyu.com/> マルキューへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。

釣れるヒント満載!!
へら鮒天国

